## 2013年度秋季講演会報告

## 渡部 潤一1

2013年11月20日から22日にかけて、実行委員会である自然科学研究機構国立天文台の施設がある沖縄県石垣市の石垣市民会館にて、日本惑星科学会2013年度秋季講演会が行われました。場所の魅力もあってか、参加者は211名(うち事前参加申込者160名、当日申込者51名)という、秋季講演会始まって以来の参加者数を記録しました。発表数も196件(うち口頭発表が105件、ポスター発表が81件、口頭発表とポスター発表の両方が義務付けられている最優秀発表賞のエントリー講演数5件)と、過去最多数となりました。また、一般講演とは別に総会後に最優秀研究者賞特別講演が1件行われました。

今回は石垣市も主催に加わってもらったことで、会場経費などを大幅に押さえることができた上、一般の石垣市民にも門戸を開き、学会の雰囲気を楽しんでいただく機会となりました。開催期間中は、心配していた台風による飛行機の欠航や、大きな混乱や事故もなく、無事に講演会を終えることができました。ご参加いただいた皆様には、心から御礼申し上げます。

講演会場として使用した石垣市民会館の大ホールはややオーバースペックではありましたが、広い会場で余裕を持って講演を聴いていただくことができました。また、ポスター発表会場としてお借りした展示ホールおよびロビーも、かなり広く、ポスターを眺めながら熱心に議論していただけたかと思います。ただ、発表数が予想を超えたため、口頭発表の持ち時間は10分(質疑時間2分を含む)、最優秀発表者賞選考のための特別セッションでも15分(質疑応答3分を含む)として節約を試みましたが、開始時刻は初日は午前9時30分、



図1: 秋季講演会会場: 石垣市民会館大ホールの様子.

二日目から9時20分としても、終了時刻が午後7時になってしまうという嬉しい悲鳴のプログラム編成となりました。3日間という制約の中で、口頭発表をパラレルにせずに行うのは、このあたりが限界かもしれません。

1日目の最優秀発表賞選考セッションでは5件の講演がありました。その発表賞受賞者の表彰式は2日目の総会で行われ、国立天文台・総研大の片岡彰正会員が受賞されました。また、2012年度に最優秀研究者賞を受賞された国立天文台の成田憲保会員の特別講演が総会後に行われました。総会が押したため、特別講演の時間がいささか短くなってしまったのは残念でした。懇親会は、会場から徒歩5分ほどのホテルミヤヒラで行われました。こちらも参加者数は169名(石垣市および八重山星の会の招待者2名を含む)と過去最高となりました。また、地元のご厚意によって、八重山独特の踊りを見せていただき、最後には皆で八重山民謡に合わせて踊るという盛り上がりでした。懇親会

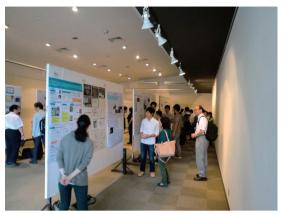


図2:ポスターセッションの様子.



図3:懇親会で踊る参加者の様子.

では、今回さまざまに便宜を図っていただきました石 垣市副市長および八重山星の会会長にもお越しいただ き、ご挨拶をお願いしました.

本講演終了後の23日午後には、石垣市教育委員会主催、当学会と国立天文台の共催によって、同じ石垣市民会館大ホールにて一般講演会が行われ、東京大学および国立天文台の田村元秀教授に、「New Worlds:太陽系外惑星観測の最前線」というお話をいただきました。当日は、小学生からご年配の方まで、たくさんの方に参加していただき、また日本スペースガード協会のご厚意で、2月にロシアに落下したチェラビンスク隕石の破片展示を楽しんでいただきました。講演は大変好評で、講演終了後に多くの質問がありました。

学会期間中の委員会や会合は、大ホールの裏側にある楽屋を使用させて頂きました。学会前々日には実行 委員会のメンバーは石垣島に入り、国立天文台の水沢 VLBI観測所石垣島天文台で最後の準備作業をさせていただきました。石垣島天文台のスタッフの皆様、また地元の石垣市、石垣市教育委員会、および八重山星の会の皆様には厚く御礼申し上げます。

最後に、国立天文台LOC実行委員として裏方で働いて下さった方々、当日アルバイトに入っていただいた学生の皆さん、多くの助言や御指南を頂いた行事部会や情報部会の皆様には、改めてこの場をお借りして深く御礼申し上げます。